

私たちが事前にしておくべきこと

災害が発生した後に私たちができることはごくわずか。災害が発生してから、気象情報などで予測されてから考えるのではなく、普段の生活にいかに取り入れていくかが、防災における重要な行動です。ここでは、被害を最小限にするための対策として、私たちが事前に行っておくべきことについてまとめました。

- アイコン説明
- 水** 水害への備え
 - 土** 土砂災害への備え
 - 地** 地震への備え

水 土 地

ハザードマップを確認する

ハザードマップとは、土砂災害や津波、浸水などについて、被害の想定範囲や規模、避難場所、避難経路などを示した地図のことを指します。

町ホームページでは各種ハザードマップ（洪水・土砂災害・ため池）が確認できます。ホームページをご覧いただけない場合は、吉備庁舎総務課でお渡しします。

水 土 地

家族と話す

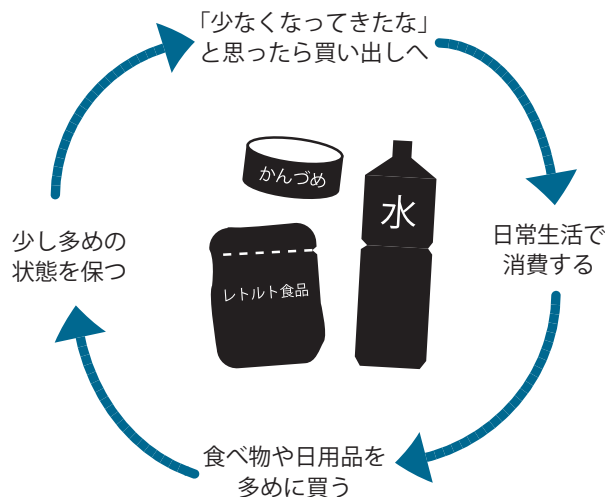
「避難場所はどこだろう?」「もし、外出しているときに地震が起こったらどうする?」など、日頃から災害時の行動について話し合っておくことが大切です。

水 土 地

物を備える

無理なく行うための日常備蓄による“ところてん方式”の備蓄を取り入れてみませんか? 備蓄品は、必需の水のほかは基本的に何でもかまいません。

避難のとき、当面必要となる最小限のものを詰めた「非常持ち出し袋」の準備も忘れずに。一人一人必要なものは異なるので、自分や家族にとって何が必要か、しっかり考えましょう。



▲ところてん方式の考え方